

平成29年度家庭教育応援プロジェクト 第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議

□ 日 時

平成29年12月8日(金)

13:30～16:30

□ 会 場

郡山市労働福祉会館

福島県教育委員会では、本県の家庭教育の現状と課題を踏まえ、家庭教育の推進や地域の教育力の向上をめざし、平成26年度より「地域でつながる家庭教育応援事業」として、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会を充実するための支援や、地域で主体的に家庭教育の支援が行えるような学習プログラムの作成、企業と連携した家庭教育等を推進しております。



これらの事業の一つとして県内7地区において、学校・家庭・地域が連携し、家庭教育の推進・子どもたちの生活習慣の向上や課題解決に向けて実践的な活動がなされるよう、PTA・学校・地域の子どもの関わっている諸団体・家庭教育支援ボランティア実践者・企業の代表者等による「地域家庭教育推進ブロック会議」を設置し、協議を行っています。

今年度2回目となる会議では、須賀川市の熊田様より家庭教育支援に関する実践発表をして頂くとともに、各推進委員より今年度の取組の報告、県中地区の課題の確認、次年度の方向性などについて活発な意見交換がなされました。

【出席者】

- 県中ブロック会議アドバイザー（学識経験者）
- 須賀川市社会福祉協議会岩瀬支所長
- 郡山警察署生活安全課専門少年警察補導員
- 県中児童相談所主任児童福祉司
- 郡山市主任児童委員
- 家庭教育支援県中協議会会長
- 須賀川市家庭教育インストラクター
- NPO法人かがみいしスポーツクラブ理事長
- 郡山青年会議所理事長
- 郡山市PTA連合会出納長（郡山市立薫小学校PTA会長）
- 岩瀬地区PTA連合会会長（須賀川市立第一中学校PTA会長）
- 実践発表者（須賀川市家庭教育インストラクター）
- 国際ビジネス公務員大学校副校長
- 国際ビジネス公務員大学校教務部こども保育分野教員

時 間	内 容
13:30～	開 会 行 事 ○ 主催者挨拶 ○ 日程確認・諸連絡
13:40～	事 業 報 告 ○ 本年度の事業報告
14:00～	報 告 ○ 各推進委員の活動について
	休 憩
15:00～	実 践 発 表 ○ 「須賀川発、家庭教育支援の実践」 須賀川市家庭教育家庭教師インストラクター 熊田ひろみ 氏
15:35～	協 議 ○ 県中地区の家庭教育推進上の課題について ○ 次年度の地域家庭教育推進県中ブロック会議の運営について ○ その他
16:25～	閉 会 行 事 ○ 御礼のことば ○ 諸連絡

今年度の事業報告

- 5月25日(木) 第1回福島県地域家庭教育推進協議会
- 6月11日(日) 三和小学校親子の学び応援講座 BALL GAME 体験会
- 6月15日(木) 第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議
- 7月 8日(土) 家庭教育支援者全県研修(郡山ユラックス熱海)
- 8月 6日(日) 岩瀬・石川・田村地区PTA研究大会
- 9月 8日(金) 御木沢小学校親子の学び応援講座 BALL GAME 体験会
- 10月 6日(金) 地域家庭教育推進県中ブロック会議「中間報告会」
- 11月 1日(水) 親子の学び応援講座 in 長沼 BALL GAME 体験会
- 11月28日(火) 郡山市PTA連合会研究大会
- 12月 2日(土) 古殿中学校親子の学び応援講座 SNS 講演会
- 12月 8日(金) 第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議
- 1月24日(水) 地域でつながる家庭教育応援事業「フォローアップ研修」
- 1月下旬予定 第2回福島県地域家庭教育推進協議会

※ 親子の学び応援講座では、「BALL GAME 体験会」を3回、「SNSに関する講演会」を1回実施した。単発の事業であるが、「親の気付き」という点で効果があった。同時に様々な機会に情報提供等を繰り返し「継続」に繋げていくことが必要である。

※ 4地区のPTA連合会研究大会の際に、今年度改訂した「家庭教育応援プロジェクト(県中版)」を配付した。

※ 国際ビジネス公務員大学校増子卓矢副校長先生より「BALL GAME プログラム開発の経緯」「県中域内での取組」「出前講座等の独自の取組」についての説明、地域貢献・地域の活性化に繋げていきたいとの挨拶があった。



報 告 「各推進委員の活動について」

- SNSを介した座間市の事件では、福島県の高中生も被害に遭っている。先日は高校生スマホサミットが開催され、高校生自ら使用の規制について提言している。ブロック会議からもSNSに関する提言ができないものかと考えている。
- 今年度の郡山警察署管内の補導件数は減少傾向にあるが、窃盗（万引き）等の初発型非行が増えていることが気付きである。不良行為も減少しているが家出は横ばいである（中・高生が多い）。スマホの普及により、友達のつながりに変化があり、いろいろな事案が起きて不思議でない状況である。配付したリーフレット「ネットには危険もいっぱい」にも記載されているが、自撮り写真による被害も増えている。現在はスマホを持たせないという姿勢ではなく、規範意識を高めることが大切である。スマホを持たせることは親が責任を持つということである。
- 家庭や地域で解決できない事案を児童相談所が扱っている。SNSやスマホに関連する事案も増加している。一方保護者の使い方やモラルにも問題が見られる。今年度ブロック会議に参加し、親と子で楽しい時間を共有する経験が大切であることを相談事業の中でも触れていかなければならないと感じている。
- 地域の文化祭に中学生が着ぐるみを着て参加してもらえるよう企画した。今年度市内の小・中学校特別支援学級の学習支援ボランティアに取り組み新たな刺激をもらっている。自分のできる範囲で活動を続けていきたい。
- 親子の学び応援講座「BALL GAME 体験会」に2回参加した。また、就学時検診にも参加している。親子の活動の様子を見ていると家庭の様子が伺える。子どもに対し親は見守り役である。親子で共有できるものを見つけてほしいと願っている。今後「親育て」が大切となるのではないかと。
- 県内の総合型スポーツクラブには、約2万人の会員がいる。小さな子どもから高齢者までスポーツだけでなく文化活動にも取り組んでいる。親子で参加しやすい状況を設定し思い出作りができる事業を意図的に企画している。幼児や児童に対し、クラブにはゲームは持参しないなどルールを決めている。小さなことからはじめ、人づくり、地域コミュニティづくりを目指している。
- 青年会議所では県内各地で20～40歳の会員が活動している。月に1回会員で「ペップキッズこおりやま」のボランティア清掃を行っている。可能な場合は会員の子どもにも参加してもらいボランティア精神を養っている。小・中学生を対象にした子どもを巻き込んだ事業も展開している。
- 学校行事では、親と子と一緒に楽しめる行事（体操教室、実験教室、ダンス教室、パステル画教室等）を企画している。また、授業参観の際にドコモに講演を依頼し、5・6年生保護者に参加してもらった。文化祭の模擬店やバザーに多くの地域の方に参加してもらえよう町内会にアナウンスをし、地域住民との交流を深めることができるようにしていきたい。
- PTAや育成会活動では、親が協力的であればうまくいく。親をいかに参加させるか、理解させるかが課



題である。親同士のコミュニケーションにはテクニックが必要である。同様に親子のコミュニケーションにもテクニックが必要である。このブロック会議からそれらの手法・テクニックを伝えていってはどうか。

- 親子が遊ぶ施設の見守りをを行っているが、親子で一緒に遊んでいる家庭は笑顔にあふれており、後片付けや挨拶などもしっかりしている。親の姿勢が子どもにも伝わっている。一方子どもだけで遊ばせ、スマホを操作しているような親もいることが残念である。
- ブロック会議で新しいことに取り組むことにも意義がある。また、既存のものを継続していることにも意義があるように思う。

実践発表

□「須賀川発、家庭教育支援の実践」

発表者 須賀川市家庭教育インストラクター 熊田ひろみ 氏

- 家庭教育支援のとりくみ
 - ・ 須賀川一小・一中での読み聞かせ
 - ・ 家庭教育インストラクター
 - ・ 一小一中おさがり会 ・ 心の教育相談員
 - ・ 須賀川こども食堂「わらりら」
- 須賀川一小・一中での読み聞かせについて
 - ・ 2006年から須賀川一小で、2013年から須賀川一中で読み聞かせを行っている。
 - ・ 朝学習の時間帯15分程度を使って実施している。
 - ・ 中学生に対する読み聞かせはより効果があるように感じる。自分で本を読めるようになったから読み聞かせをやめるのではなく、続けることが大切である。読み聞かせをしてもらうことで作品を味わうこともできる。
- 一小一中おさがり会について
 - ・ 震災後避難してくる子どもたちのために卒業生等から、「制服」「運動着」「カバン」「学用品」等を寄付してもらい、安価で提供する仕組みを作った。
 - ・ 保護者によってはなかなか足を運ばず、学校を介して利用している家庭もある。
 - ・ お預かりした協力金は、一小、一中に届けている。
- 須賀川こども食堂「わらりら」について
 - ・ 家に居場所がない、学校に行きたくないという子どもがいることに気づく。子どもたちの居場所としてスタートした。笑ってリラックスできる場所→「わらりら」と。
 - ・ SNSを通じ8名の賛同者が集まる。(現在は20名に)
 - ・ 資金なし、場所なしの状態からスタート。地元夕刊紙に記事を掲載してもらったところ食材が集まり、場所の提供もして頂けた。
 - ・ 1回目子ども食堂では、カンパが多く集まった。月1回の開催であれば、会場費、食材費等を含め運営は可能である。現状では月4回の開設は難しい。その他各種補助金等の申請も行っている。



- ・ ボランティアの登録もサポーター登録（2,000円）を前提条件としている。
- 「わらりら」の活動から感じたこと
 - ・ 「いたいと感じられる場所」「役に立っていると感じられる場所」「否定されない場所」「認めてもらえる場所」を求めている。「わらりら」に来る子どもたちにとって、学校・家庭がそのような場所になっていない。
 - ・ ボランティアが多く集まってくる。こんなことができると提案してくれる（岩瀬農業高校の生徒・教師、郡山市ボードゲームの団体等）。
 - ・ つながりの貧困。人とつながれない大人（親）が、子どもと一緒に行動できることもある。子ども食堂がつながれる場所になっている。
 - ・ 職業観の貧困。保護者による「否定」により、なりたいけどなれないと思ってしまう。
 - ・ 経験値の貧困。経済的な制約も。
 - ・ 母と子で「わらりら」に来る方が多い。母親も心許せる場所、関わりを持てる場所を求めているのかもしれない。ちょっとしたヘルプがほしいのと思う。
- 「わらりら」の課題
 - ・ 今まで来ていた子どもたちの中に来なくなった子どもがいる。その子たちにとっての居場所でなくなった？
 - ・ 開催場所、資金面の問題解決。スタッフの確保。
 - ・ 子どもたちの心を育て、強くする活動を進める（傷つけない心を育てる。スタッフも同じである）。
- 質 疑
 - Q：「わらりら」で食事の作法は教えているのか？
 - A：危険でなければ良いというスタンスでいる。居心地を悪くしないことを原則にしている。
 - Q：中学生に読み聞かせしている本は？
 - A：読み手が好きな本を読み聞かせしている。絵本もあるし、詩集もある。
 - Q：子ども食堂をスタートさせたきっかけは？
 - A：居場所のない子どもたちがいることに気付いた。学校ではそのような状況を知っていることもあれば知らない場合もある。

協議 1 本地区の家庭教育の課題について

各推進委員より

- 携帯電話・スマホについて否定することはできない。良い点を伸ばす方向で検討しなければならない。コミュニケーションのとれない子どもの増加（携帯電話・スマホを通してはできるが）を踏まえ、国語力を高める意味で読書活動を強化する必要があるのではないか。
- 今まであった当たり前の良さを活かした活動を継続していきたい。「何かをしたい」と思っている人たちもたくさんいるはずである。
- 子どもの問題は、背景に親の問題が潜んでいる。親はどうすべきかを学ぶ機会が必要である。積み重ねていくことが家庭教育につながる。



協議 2 次年度の県中ブロック会議の運営について

- あるアンケートの結果では、小学校低学年までの親の悩みとして、「しつけ30%」「子どもとのコミュニケーション15%」「社会性15%」「発達障がい」が上位を占めている。
- 携帯電話・スマホの使い方について家庭教育を推進していく。
- 身近なところでどんな家庭教育支援を受けられるのかわからない家庭が多い。そのような活動を紹介していく活動を進めてはどうか。
- 携帯電話・スマホについては継続して取り組んでいきたい。
- 親子のふれあい、基本的な生活習慣がかけている家族も多い。ワールドカフェのように自分の思いを話す機会も必要ではないか。
- コミュニケーション能力を高めるために、読書活動や読み聞かせの取組をしていきたい。
- 道徳力を高めるための講座、親子間の会話をするための方策について取り組んでいきたい。
- PTA活動や家庭教育推進の事業に出席する親はいいが、出てこない親に対する手立てを検討していかなければならない。
- ブロック会議で出た貴重な意見を発信していきたい。親の学習、親学を進めていく。
- 家庭教育を推進していく中で「いい親であってほしい」と願っている。しかし、そうでない親もいる。その子どもは地域の中にいる。その子どもたちを何とかしていきたい。



協議 3 その他

- 家庭教育推進「フォローアップ研修」について
1月24日（水） 須賀川アリーナ
- 「家庭教育応援企業」について
推進委員に啓発を依頼
- 「次年度の推進委員」について

